

外骨、漱石、子規 時代を駆ける！



▲教官閲覧室での展示風景

▼資料を熱心に観る高校生たち



▲感想が書かれた付箋

八月一、二日、東京大学オープンキャンパスに合わせて、今年も小展示を行いました。今年度は明治一五〇年ということで、テーマを「明治と共々生まれた青年たち―外骨、漱石、子規、時代を駆ける！―」とし、明治の年号と年齢を同じくする宮武外骨、夏目漱石、正岡子規に焦点を合わせた資料を展示しました。猛烈な暑さのなか、二日合わせて二〇〇名もの見学があり、高校生、一般の方、海外の方など学内外の皆さまが、明治四十五年間を駆け抜けた資料を熱心にご覧になりました。また、感想を付箋に書いていただくコーナーには「明治の始まりから終わりまでを見て平成の『終わり』、新しい時代を生きている人として、やりたいことに取り組むたいと思つた」「三人の人生と明治時代を重ねながら資料を見ることができた」など、多くの熱いコメントが寄せられました。

東京大学オープンキャンパス展示

明治四十五年を貴重な資料で振り返る



第四號
平成三〇年十月三十一日(水)

編集・発行

東京大学大学院法政学政治学研究所
附属近代日本法政史料センター
明治新聞雑誌文庫

〒113-0033

東京都文京区本郷七-1-1

電話 〇三-五八四-1327

FAX 〇三-五八四-1022

年二回発行

URL
<http://www.meiji.j.u-tokyo.ac.jp/>
Mail
lmeiji@j.u-tokyo.ac.jp
Twitter
@UTokyo_LMeiji

国立公文書館で明治新聞雑誌文庫資料デジタル画像公開開始

国立公文書館積極収集事業に協力

国立公文書館では、自館所蔵の公文書を補完する資料を中心に、他機関が所蔵する資料をデジタル化して収集する事業を行っています。この度、明治新聞雑誌文庫所蔵資料の一部がデジタル化され、国立公文書館内で閲覧可能となりました。

今回デジタル化されたのは、当文庫が所蔵する「絵入自由新聞」のすべてと、当文庫の分類で「一枚物」と呼ばれる資料群の一部です。



▲保存されている引出しごと梱包され、慎重に運びだされる「一枚物」

「絵入自由新聞」は製本されていたものが、専門業者が一旦解体し、デジタル化作業後に中性紙保存箱に入って戻ってきました。「一枚物」についても、憲法発布式の錦絵や、新聞の附録など、さまざまな資料がデジタル化されました。



▲「絵入自由新聞」に連載された小説「恋の革命」の挿絵。出版掲載などでの人気 No.1。

▼製本解体後、撮影を終えた「絵入自由新聞」。専用の中性紙保存箱に収納、保存されます。



今回のデジタル化ではほかに國學院大學図書館所蔵の梧陰(ごいん)文庫も閲覧できるようになったとのこと。

中性紙保存箱作成のため資料を採寸

平成三十年八月六日と七日と二十四日に中性紙保存箱作成準備のための資料採寸が行われました。専門業者三名が書庫に入り、保存箱作成に必要な資料のデータを採取しました。猛暑に加え、まさかの台風来襲によりスケジュールの変更を余儀なくされましたが、無事に七八七箱分の計測が終了しました。

資料の移転作業に備え、破損や劣化を防ぐためにも保存箱への収納は緊急かつ重要な事業です。昨年度に続きこれら保存箱をご寄附により順次作成してまいります。支えていただいている寄附者の皆さまに深く御礼申し上げます。

魅せる 広がる明治文庫

東京大学

ホームカミングデイ講演会

東京大学ホームカミングデイ(平成三十年十月二十日(土))において、講演会「史料から考える近代日本の政治―明治新聞雑誌文庫の世界」(講師 北岡伸一先生(本学名誉教授、国際協力機構(JICA)理事長)、佐藤信先生(本学先端科学技術研究センター助教)、司会 荻部直先生(本学法学政治学研究所教授))が開催されました。

晴天に恵まれた本郷キャンパスには多くの方が来場され、当文庫の設立から資料の保存・公開、近代政治史との関係、資料活用まで幅広く議論されました。



▲講演会会場にパネルを設置

国立公文書館平成三十年秋の特別展の特別展に出展

国立公文書館の平成三十年秋の特別展「明治一五〇年記念「躍動する明治―近代日本の幕開け」(会期 平成三十年九月二十二日(土)～十一月四日(日))に「徴兵免役心得」を出展しました。このほか「憲法発布式之圖」「頓智協会雑誌」など九点もパネル展示されています。

鳥取県立公文書館 明治一五〇年特別企画展に出展

鳥取県立公文書館の明治一五〇年特別企画展「明治時代の鳥取県―維新から大正改元までの記録」(会期 平成三十年九月八日(土)～十月二十三日(火))に「山陰新報」「山陰隔日新報」など三タイトル五点を出展しました。

これに先立ち八月二十二日(水)に新日本海新聞社による撮影が閲覧室にて行われ、翌八月二十三日(木)の「日本海新聞」に鳥取県立公文書館員が資料を見る様子が掲載されました。

岡崎市美術館「近代日本の挑戦者たち」展に出展

岡崎市美術館の「明治一五〇年近代日本の挑戦者たち―博覧会にみる明治の三河」(会期 平成三十年九月二十九日(土)～十一月十一日(日))に「博覧会票告―岡崎」を出展しました。

憲法と研法「発布式」―新規受入資料のご紹介

明治二十二年に執り行われた大日本帝国憲法発布式を描いた華麗な錦絵「新皇居於テ正殿憲法発布式之図」を本年度新規購入いたしました。竣工間もない豪華な宮城の内装、列席者の顔立ちまで描き分けられた様子など絵師の技量や、木版技術の高さが実感できる華麗な錦絵です。

大日本帝国憲法発布は当時非常に強い関心が寄せられ、式典や賑わいの市を描いた鮮やかな錦絵が当文庫にも数十点以上所蔵されています。

今回購入した錦絵は松斎(安達)吟光という絵師が描いており、当文庫初代主任宮武外骨が若かりし頃、憲法発布に纏わる不敬罪へ問われた要因の一つ「頓智研法発布式」という風刺画の画工と同じ人物になります。今回の購入によって展示などで二点合わせてご覧いただくことが出来るようになりました。刷りの状態も非常に良く、貴重な資料が文庫に加わりました。



▲「新皇居於テ正殿憲法発布式之図」(一部)

HOT!
明治文庫グッズ
売れています!

赤門隣の東京大学コミュニケーションセンターでは、明治新聞雑誌文庫雑誌シリーズが好評販売中です。インテリアうちわ、超撥水風呂敷、蛇腹便箋レターセットの三種類、来館の際にはおみやげにぜひどうぞ。

耐震改修工事準備・計画について

現在、学内の建物耐震改修工事が進んでいます。史料編纂所と明治文庫の区画についても工事が予定され、二〇一九年度に着工となる見込みです。工事にあたっては、資料を退避させ、事務室も移転することになります。移転から再開準備までおよそ一年余りを休館することになります。

まだ詳しいスケジュールは決まっておりませんが、いよいよ目前に迫った資料移転作業に備え、ジュニアスタッフ(法学部生による明治新聞雑誌文庫の業務お手伝い)と共に資料や書庫の整備を進めています。

この整備作業を行うため、平成三十年度後半には随時閉室の期間を設けさせていただきます。今秋の集中閉館では、ジュニアスタッフたちと共に倉庫の資料を片付けました。まだ道半ばですが、欠号であった新聞なども見つけることができ、貴重な機会となりました。



▲見つけた新聞の欠号
▲古い資料の埃を払う

閉館時期などご来館の際にはホームページのカレンダーをご確認ください。ようよろしくお願いいたします。スケジュールについては、随時、明治新聞雑誌文庫ホームページ <http://www.meiji-j-u-tokyo.ac.jp/index.html> 等でお知らせしています。